

# 保育実習に必要な養成カリキュラムの検討

——保育士（岐阜県・愛知県）の意識調査に基づいて——

東海女子短期大学児童教育学科  
幼児教育専攻共同研究

## 1. はじめに

平成10年度児童福祉法の改正が行われ、保育所のあり方や保育士の職務も大きく変わった。現代の保育士に要求されている職務は、従来の乳幼児の養護と保育のみではない。乳幼児の養護と保育のほかに、親のための家庭教育に関するカウンセリングや親子の関わりを深めるための支援も課されている。たとえば、育児不安を抱える母親の相談を受ける、親による幼児虐待を発見する、子どもの発達遅れを発見するなど保育士の役割になっているのである。

しかも支援の対象となるのは、保育所に在籍している親子のみならず、その保育所の所在地域に居住する乳幼児とその親となっている。具体的な活動の一つとしては「地域子育て支援センター事業」があげられる。この事業は、1999年12月に大蔵・文部・厚生・建設・自治6大臣の合意により策定された「重点的に推進すべき少子化対策の具体的実施計画（新エンゼルプラン）」に含まれている。「新エンゼルプラン」によれば、地域子育て支援センターの数を平成16年度までに、11年度現在の1500カ所から3000カ所に増加する予定である。これにともなって、保育士の親支援の役割は、今後ますます増大するであろう。そして、より豊富に知識・教養を備え、それらを現実の保育の場面で応用できる能力を有する保育士が必要となる。また保育士は、親に対するカウンセリングマインドも身につけなければならぬ。

このような状況下で、実習生を受け入れる保育士達は、保育職を希望している短期大学

の学生に対して、実習生としてどの程度の指導性と専門的能力を必要とみなしているのだろうか。短期大学において保育者を養成する学科・専攻は、保育者として学生を巣立たせるまでのわずか2年間の養成期間内に、保育所、幼稚園、児童福祉等施設と合計3カ所の実習をこなさせねばならない。どの保育者養成学科・専攻も大変過密なスケジュールで講義や演習を開講しているのが実状である。さらに一般にどの短期大学でも在籍1年目の後期から、これらの実習が開始される。

とくに保育所は、将来の職場となる可能性がもっとも高い。だから、学生にとって保育所実習は貴重な体験ではあるが、保育士養成カリキュラム修得半ばの実習生を受け入れる各保育所は、実習生の指導に苦慮することと思われる。

実習受け入れ保育所での実習生に対する指導の過重負担が少しでも軽減されるように、保育実習に学生を送り出すまでのカリキュラムを効率よく編成する責務が保育士養成校にはある。また、実習を行うまでに学生自身が保育に対する責任と自信をもつことが可能となるように、保育士養成校として配慮しなければならぬ。

つまり短期大学に在籍する限定された期間と、厚生省によって規定された保育士養成カリキュラムの中で、いかにその配列部分を工夫するかが、養成校の課題である。

## 2. 調査の目的と課題

本調査では、短期大学在籍2年間の保育士養成カリキュラムを、保育所実習の開始まで

に是非修得しておかねばならない授業科目と、保育所実習後に開設した方が開講効率がよい授業科目とに分類し、保育士養成の効率化を図ることを目的とする。

また、学生達が自信を持って実習を体験できることを目指して、確実な保育技能を身につけることができるように、カリキュラムを工夫したい。そのために実習を行うまでに、最低限必要とされる技能修得と専門的能力について検討をする必要がある。

まず、保育士養成カリキュラムの最適化を図る端緒として、保育実習を受け入れている保育士が実習生に要求する能力や態度について調査することにした。調査は、質問紙を用いたアンケートにより実施した。本学幼児教育専攻に所属する専任教員(共同研究者7名)が保育所78カ所を訪問し、各保育所(園)長に口頭でアンケートの趣旨を伝え、各保育所(園)の保育士全員にアンケート用紙を配布していただいた。よって保育士の回答は、本学の実習生に対するものではなく、保育実習生に対して一般的に要求したいことを記述していただくよう、アンケートを依頼する際に十分説明を加えた。

現職保育士からみた保育実習生への要望を把握し、これらを手がかりとして保育士養成カリキュラムについて検討する。

### 3. 研究方法

#### ・調査日時

2000年2月～3月

#### ・調査の依頼と実施(対象)

岐阜県・愛知県の保育所78カ所

644名の保育士にアンケートを配布

#### ・回収 539件(回収率83.7%)

アンケートの対象は岐阜県、愛知県の保育所(園)に限定した。というのは、保育士の要件は、各地方行政の意向を反映するところが大きいからである。これまで東海圏に多くの保育士を輩出し、かつ今後ともこの地域の保育者養成を主たる目的とする本東海女子短期

大学としては、地元保育所(園)の要望を第一と考え、愛知県と岐阜県の保育所(園)に調査対象を限定した。

なお回答用紙は、各保育所(園)毎にまとめて返送願った。

また本調査は、下記のような作業・執筆分担によるので、付記しておく。

#### ・作業分担

アンケート作成と配布：全員

アンケートの回収とデータ処理：杉山

#### ・執筆分担

1. はじめに : 白幡
2. 研究の目的と課題 : 白幡
3. 研究方法 : 白幡
4. 対象者の属性 : 杉山
5. 結果と考察
  - (1) 保育者としての資質について : 長谷部
  - (2) 実習までに獲得すべき教養 : 桑原、松尾
  - (3) 実習までに身につけたい保育技能について : 若杉、篠田
  - (4) 実習までに優先させるべき保育士養成カリキュラムについて : 白幡
  - (5) 幼児理解能力の育成について : 白幡
  - (6) 実習担当保育士が望む実習生像について—自由記述より— : 松尾
6. おわりに : 若杉

### 4. 調査対象者の属性

調査対象者の勤務している保育所の園児数については、150人未満が70.5%を占めており、また、設立年数では、20年以上になる保育所が86.8%と大多数を占めている。設置環境については、53.6%が住宅地域で最も多く、次いで23.5%が農村地域であると回答している(図1, 2, 3)。

保育士に関しては、仕事に就いて5年未満の保育士が126名で、一番多く、ついで、21年以上25年未満の92名、6年以上10年未満の88名と続いている。以上のことより、今回の

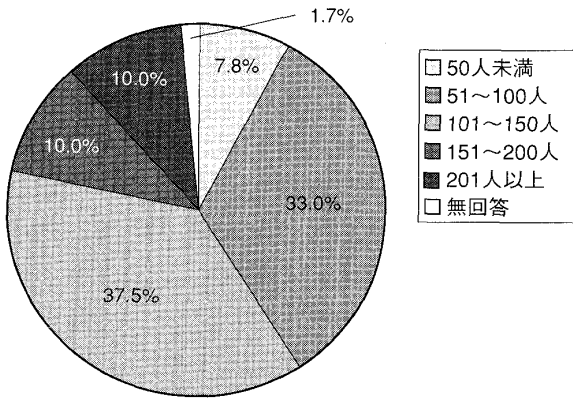


図1 勤務保育所の園児数

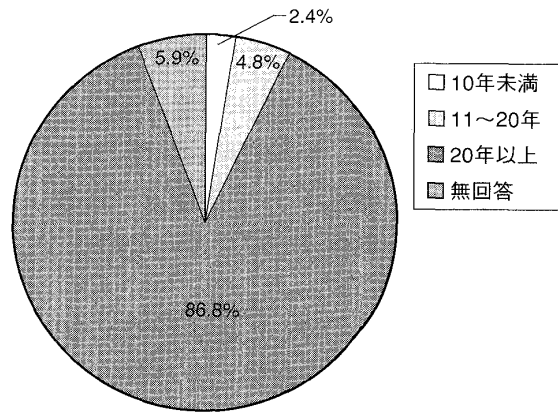


図2 勤務保育所の設立年数

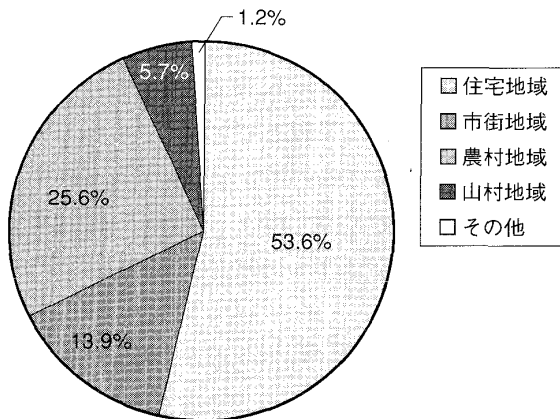


図3 勤務保育所の設置環境

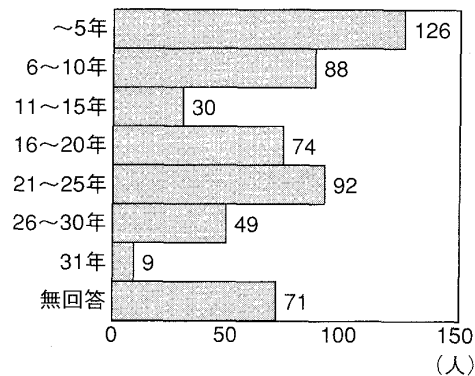


図4 保育士としての経験年数

回答者については、保育士としての経験年数が、11年以上15年未満と30年以上の保育士の数が少なく、経験年数の比較的短い保育士が多いといえる。(図4)

## 5. 結果と考察

### (1) 保育者としての資質について

「学生の日常生活に関して欠けているのはどのような面ですか」(表1)という質問に対して、最も割合の高かったのが、「職員の執務中に言葉をかけて行動する事ができない」という項目で36.7%であった。「会釈ができない」(13.7%)、次いで「朝の挨拶ができない」(12.8%)と続く。最も高い割合の項目と次の項目で、全体の1/3強を占めている。

これらから考えられることは、話がはっきりと言える、自分の行動に対する言葉が素直に口からついて出る実習生を求めているよう

である。例えば、職員の職務中に「何々をしてきますので、よろしく願います」などと言、言葉をかけて、次の行動を起こしてくれれば、保育士も実習生の動向がつかめ、仕事がしやすいのではないだろうか。

また、子どもたちとの触れ合いの中で、感動した時に「子どもたちは、こんな事も出来るのですね」などと素直に喜びを言葉で表現してくれる実習生であれば、きっと子どもたちに対しても上手く誉めてあげられるのであろう。

「会釈ができない」「朝の挨拶ができない」「挨拶はできるが、相手の目を見てできない」という項目に対して感じる事であるが、実習生はあまり挨拶に必要性を感じていないのではないか、あるいはごく一部の実習生の中には照れや恥ずかしさが先に立って、挨拶の言葉を素直に口に出せないという場合も見られる。このあたりは、事前指導の折に、挨拶がコミュニケーションや言葉かけの基本なのだ

という事を根気よく話して理解させる必要がある。

言葉使いに関して、「敬語が使えない」(21.7%)「園児に対して適切な言葉使いができない」(28.2%)「指導に対する適切な返答」(26.7%)とほぼ3項目が似たような割合で表された。(表2)

実習生は、保育士に対して敬語を使わなければならないという事を理解していないと思われる場合もあり、友達感覚で話しをする傾向がある。同様な話し方で園児にも言葉かけをしている場合も見られる。積極的に子どもに言葉かけをし、援助ができるのが理想的な保育士なのだが、それには適切な言葉使いを習得する必要がある。

「指導に対する適切な返答」に関し、保育中指導を受けるとすぐに嫌な顔をするという話を実習中耳にする機会があるが、やはり実習生の事であるから担当保育士からの適切な指導を望みたい。その際、実習生の返答の仕方、態度は、将来をより良い保育士を育てようという担当保育士の意欲を削ぐことにもなりかねない為に、事前指導に力を入れたい。

「望ましくない外見」に関しての上位3項目

表1 日常生活に欠けている点 (複数回答)

	人数	%
朝の挨拶ができない	69	12.8%
帰りの挨拶ができない	51	9.5%
会釈ができない	74	13.7%
相手の目を見て挨拶ができない	61	11.3%
言葉をかけて行動できない	198	36.7%
特にない	164	30.4%
その他	32	5.9%

※パーセントの母数は539

表3 実習生として望ましくない外見 (複数回答)

	人数	%
髪をカラフルに染めている	155	28.8%
長い髪をまとめていない	227	42.1%
耳にピアスをしている	92	17.1%
派手でないマニキュアをしている	108	20.0%
保育中の携帯電話保持	233	43.2%
ジャージ以外のスラックス着用	35	6.5%
華美な色の服装	55	10.2%
その他	36	6.7%

※パーセントの母数は539

は「保育中に携帯電話をも持っている」

(43.2%)「長い髪をまとめていない」(42.1%)「髪をカラフルに染めている」(28.8%)となっている。回答者の半数近くが上位2項目に記録を残している。最近では髪を染めるということに関しては、色にもよるが以前ほど強い拒絶反応は示されていない。「耳にピアスをしている」(17.1%)などもそれほど強く拒絶されていない。ただ「長い髪をまとめていない」に関してこれだけ多く望ましくないと受け止められているという事実は実習生自身気づいていない恐れがある。やはり、給食時に不潔な印象を与えてはいけないだろうし、見た目ですっきりしていない。その場に応じた身だしなみの大切さや第一印象はとても大切なので、服装には注意して欲しいという保育士の要望に添えるように指導したい。

「実習生に欠けていると思われる作業能力はどのような事項ですか」(表4)の中の「箒での掃除」、「雑巾がけ」、「園児に上手に食べさせる」などという細かい作業能力に対して、何れの項目に対しても同様な割合を表している。特に割合の高かったのは、「分からない

表2 言葉遣いについて (複数回答)

	人数	%
敬語が使えない	117	21.7%
園児に対する適切な言葉遣いができない	152	28.2%
指導に対する適切な返答ができない	144	26.7%

※パーセントの母数は539

表4 実習生に欠けている作業能力 (複数回答)

	人数	%
箒での掃除	81	15.0%
雑巾がけ	76	14.1%
手洗いで洗濯	26	4.8%
食器の後片付け	20	3.7%
時間内での食事	27	5.0%
食事の食べさせ方	99	18.4%
場所に応じた箒の使い分け	43	8.0%
場所に応じた雑巾の使い分け	52	9.6%
洗濯機・ストーブ等の使い方	20	3.7%
わからないことを尋ねる	340	63.1%
その他	22	4.1%

※パーセントの母数は539

事を尋ねる」(63.1%)と今までの「実習態度の面から…」の全質問項目の中で俄然抜きんでている。いかに、実習生が分からない事を尋ねていないかということである。保育士からの要望の中にも分からない事はすぐに聞いて欲しいという指摘が数多く見られた。また、保育所(園)の保育士に分からない事を聞くのと同時に、担当保育士といろいろな話をして知識を深めて欲しいという要望も見られたが、これも実習生が忘れてはならない内容である。

最後に、実習生の資質として何が必要かであるが、

- (1) 基本的な生活リズムを整えること。
- (2) 実習生としての目的意識を持って積極的に活動できること
- (3) 保育職は自分の姿勢や態度がそのまま子どもに反映される仕事であるため実習生は常に自分を磨こうとすること

という3項目に絞られるようである。ただ最近の実習生はこれらの題目を与えるだけでは、それをどのように消化するのか分からなくて消化不良を起こす事が多くなってきている。やはり、それぞれの項目をより詳しく、分けて、細かく指導する必要があると感じられる。

それに対する学生への対処方法であるが、従来の講義形式からの一方的な受身の授業からだけでは、今の学生の疑問点は解決できないのではないかという養成校側からの意見も聞かれる。やはり実習生が納得し、かつ満足する方法で指導していかなければ効果は見られないだろう。一度理解すれば素晴らしい行動力さえ表してくれる学生は、同世代の経験や意見を聞かせ、質問することによって成長していくのでないか。

すなわち、先輩と後輩、つまり、本学においてはこれから実習を行う予定の1年生と、既に実習を終えた2年生との意見交換会のような場を設けている。全く経験の無い学生が現場の生の声を聞き、疑問点をぶつけることで、次回に自分が先輩の経験を役立たせることが出来る。現在、このようなゼミ形式の演

習を設けて指導にあたり力を入れている。

## (2) 実習までに獲得すべき教養

表5は、文章能力についてどのようなことを望むか、について示したものである。

これによると「簡潔な文章」(47.9%)、次いで「表記能力」(33.8%)、「漢字能力」(17.8%)無回答が(0.5%)であった。この回答から見ると、表記においては漢字習得が必要であるがそれ以上に文章の主旨を的確につかんだ表現が望ましいと考えている回答が多い。これについては、実習生の文章が国語力に欠けていたり、表現が不明瞭と指摘しているのではないかと考えられる。

表6は、パソコンの技能について示したものであるが、「文書作成」(56.2%)が最も高いのは、パソコンが事務室に設置されており、保育所(園)で必要な書類の作成や、保護者への通信文などの作成のための能力が望まれていると考えられる。

また、「表計算」(4.5%)、「グラフィック(お絵かき)」(8.2%)、「インターネット」(5.2%)などこれらの技能の必要性が低いのは、パソコンを活用した保育活動がまだ少ないのではないかとと思われる。しかし、社会情勢から見て今後はこの部分の能力が急速に求められてくるとと思われる。

表7は、自然環境の知識について示したものであるが、「季節・行事の知識がある」(66.6%)と最も高い割合になっており、次いで「動物の名称が言える」(46.2%)、「園の周りの環境把握ができています」(23.7%)、「飼育栽培ができる」(23.0%)となっている。

これは子どもの遊びを援助したり、子どもの興味や探究心を引き出させる能力が必要であり、そのために身近な自然の変化や環境に敏感な感性を持っていることが望まれているのではないかと考えられる。

また、「季節・行事の知識がある」については、本来家庭教育の領域であるにもかかわらず、約7割と高い必要性を感じているのは、若い母親に季節・行事の知識や経験が少なく、

表5 望まれる文章能力 (複数回答)

	人数	%
漢字能力	96	17.8%
簡潔な文章	258	47.9%
表記能力	182	33.8%

※パーセントの母数は539

表7 望まれる自然環境についての知識 (複数回答)

	人数	%
動植物の名称が言える	249	46.2%
飼育栽培ができる	124	23.0%
季節・行事の知識がある	359	66.6%
園の周りの環境把握ができています	128	23.7%

※パーセントの母数は539

保育所(園)行事として行っている場合が多いのではないかと考えられる。

表8は、時事の知識について示したものであるが、「新聞に掲載されている範囲」(52.9%)と高く、次いで「TVニュースの範囲」(36.0%)となっている。これは実習生にも常識人としての素養が期待されていると見なしてよいであろう。

(3) 実習までに身につけたい保育技能について

表9の「お話」などの知識については、幼児期の人間形成に必要な社会性・モラル・知識・意欲・想像力などを養う手段として重要な世界と考えている。実習生として当然必要な知識としてアンケート項目とした。解答を見ればわかるように物語についての知識の必要性を過半数が要望する結果となっている。が、その中でも今回のアンケートの特徴としては、「自分の好きな作品を数作選び、読み・語れるようにする」が59%と最多の回答を得ている点である。このことから分かるのは、ただ暗に多くの作品を知識として身に付けるだけではなく、確りとした自分自身の意見や、作品の内容に共感・共鳴できる感受性の豊かさをも共に求めているということである。これは、知識を積み重ねるだけでなく、自分自身の思想や夢を持った保育者像を求める結果になっていると言えよう。

表6 望まれるパソコンの技能 (複数回答)

	人数	%
文書作成	303	56.2%
表計算	24	4.5%
グラフィック(お絵かき)	44	8.2%
インターネット	28	5.2%
その他	49	9.1%

※パーセントの母数は539

表8 望まれる時事についての認識

	人数	%
新聞に掲載されている範囲	285	52.9%
TVニュースの範囲	194	36.0%
あまり必要でない	16	3.0%
無回答	44	8.2%

※パーセントの母数は539

表10の読み聞かせの技能については、最近自己表現力が著しく欠如している学生が多々見受けられるので、現場でどのような点を求められているのかということが主眼となった。

下欄の回答を見ると、声の大きさを最重要視している回答が70.7%と最も多く、また適切な速度で読むが57.5%と過半数を占めている。意外であったのが感情を込めて読むが45.8%と過半数を割ったという点である。ここから読み取れることは、感情表現を織り込んで読み聞かせすることも当然大切であるが、実習生の段階では、聞き手である子供たちのことを考え、先ずは子どもたちが聞き取りやすく、理解できるように読み聞かせることが大切であるということを表しているようである。

表9 お話・絵本・紙芝居の知識について (複数回答)

	人数	%
できる限り多くの作品を読んでおく	297	55.1%
自分の好きな作品、数作	318	59.0%
2~3作ずつまんべんなく	43	8.0%
その他	12	2.2%

※パーセントの母数は539

表10 読み聞かせの技能について (複数回答)

	人数	%
適切な声の大きさと読む	381	70.7%
適切な速度で読む	310	57.5%
感情を込めて読む	247	45.8%
読後の語りかけができる	92	17.1%

※パーセントの母数は539

る。また読後の語りかけができるについても17.1%と2割を割った数字が出ているが、これも実習生の段階では、前述と同じく先ず分かりやすく読み聞かせることを第一とした結果であろう。(若杉)

表11の音楽の技能(歌う・弾く)についての質問は、6項目あるが、技能習得においては、かなりの努力と時間を必要とするものと、比較的短時間で済むものがある。本項目においては、ピアノの技量が実習段階でどの程度重きを置かれているか、歌や手遊びの学生自身の自己表現力が現場でいかに重要視されているかの点についての確認が目的であった。

まず、「歌えて弾けるレパートリーを20曲以上は持っている」についての回答は、もう少し高い数値を予測していたが18.9%にとどまった。これはピアノ伴奏をしながら歌う技能であり、保育士としては高いレベルを求められる分野である。しかし、学生(実習生)にとっての、ピアノの技能習得はとても時間を要するものであり、同時に、地道に、根気強く、毎日の練習を積み重ねることが要求される。そしてさらに、この努力は、課題が個人に応じて異なるので一人で取り組まなければならないものである。この特殊性は、「特に期待しない」(9.6%)の中に表れている。しかし、実習現場で避けて通れるものではないということが18.9%から読み取れる。したがって、これは技能習得の特殊性を考慮された結果といえる。

次に、「実習中に園児が歌っている曲がすぐに覚えられるような応用力」(50.3%)と「10種類以上の手遊びのレパートリーを持つ」(41.2%)については、予想どおりの回答結

果である。つまり、ピアノの技能は、短期間での習得は難しいことなので一年生では多くを望めないことはやむをえない。しかし、短期間で習得できる手遊びや童謡を歌う分野で多くのレパートリーを持ち、状況に合わせて実施できる力、表現できる力を蓄えたうえで、実習に臨んでほしいという結果であろう。意外だったのは、「簡易楽器の的確な取扱い」(7.8%)であった。簡易楽器の技能はピアノより短時間で習得できることが大きな特徴である。子どもたちでもすぐに使えるものもあるが、種類が多く、使い方の不明なものも多い。個人で習う機会がほとんど無いので養成期間中に奏法をしっかりと学んでほしい。しかし実習生が実習中に必要とされるには至らない。さらに取り扱いを知っていても、それを使って援助する内容が伴わないと活かされないためと考えられる。

「手遊びのレパートリー」に関しては、専門的資質に関する調査結果でも53%と高い割合を示している。「手遊び」の良さは、園全体の大集会から、実習生と園児1対1の静かなやりとりまで、どんな人数、場所、年齢でも、そして、その時々場に合った、多様な気持ちに対応できることであろう。楽器の伴奏に合わせての活動より幅広く園児の気持ちに寄り添った表現活動ができるのである。ふまえて、現状では子どもの発達を理解し、それぞれの状況、年齢に対応できるよう、また多くのレパートリーを持てるよう、保育内容のいくつかの授業の中で取り扱っている。これらの結果から「手遊び」の技能と、学生自身の自己表現能力を養う重要性を再確認した。

「その他」に関し32件の回答があった。そのうちの半数が、「実習生自身が楽しんで口ずさめる歌心、子どもと共感し楽しんで歌う、弾く、手遊びをする気持ちと喜び溢れる表現力」を求められた。次に「自信を持って使える手遊びを」「演奏技能をもっとしっかり」であった。「ピアノが弾ける」「大きな声で歌える」「手遊びをたくさん知っている」という表面的な技能だけではなく、実習生自身が

表11 音楽の技能について(複数回答)

	人数	%
レパートリーが20曲以上ある	102	18.9%
園児間での流行曲をすぐに覚える	271	50.3%
簡易楽器等の的確な取扱い	42	7.8%
手遊びが10種類以上使える	222	41.2%
特に期待しない	52	9.6%
その他	32	5.9%

※パーセントの母数は539

表現する喜びを楽しみ、感動や、充実感を味わう体験を日常生活の中で体験し、実感して欲しいというメッセージと捉える。音楽表現担当者としても技能習得にばかりに目がゆき、友人と比べてコンプレックスを持ち、悩む学生が多い現実を感じ、授業では、音を楽しみ、表現する喜びを味わう体験をすることを目的としている。何よりも音は、学生にとっても子どもにとっても癒しになり、豊かな感性とのびのびとした喜び溢れる表現力は「自信」となり、自己評価を高め、安定した精神を促すからである。(篠田)

表12の表現遊び(造形)の能力についての質問は、「その他」を含め5項目あるが、大まかな内容として実習生自身の表現能力と、知識・保育技能にかかわる事項の2項目に分けることができる。質問者自身ここではどちらが実習の段階で重きを置かれているか大変興味があった。回答を見ると実習生自身の表現能力が約55%と過半数を得たが、他の質問項目については18~27%と、いずれも実習生の表現能力の半数を割り、どちらかという、造形遊びの知識や保育案の作成力ならびに指導・援助に関わる能力より、実習生自身の表現能力を重要視する傾向が見受けられた。複数回答という条件を鑑みても、質問作成者としてこれは予想外の結果であった。このことから推測出来ることは、行事に関する諸々の製作能力や壁面構成などの表現能力を、実習生のみ観点ではなく、保育士の基礎的表現能力(技能)として求められているのではないかとということである。いわゆる日々の保育の中で保育者として必要な造形表現能力(描いたり作ったり)を求める傾向が見受けられたということであろう。造形表現の教員とし

表12 表現遊びの技能について(複数回答)

	人数	%
造形遊びの種類・素材の知識	147	27.3%
保育計画の作成力	101	18.7%
指導・援助に関わる能力	135	25.0%
実習生自身の表現能力	296	54.9%
その他	7	1.3%

※パーセントの母数は539

ても、描いたり作ったりすることに強い苦手意識やコンプレックスを持つ学生が多いということは如実に感じている。そのため講義のテーマは表現することの楽しさや喜び、充実感を体験・実感し、造形表現に対しての苦手意識を払拭することを目的としている。表現することの楽しさを理解する保育者は、子どもの表現にも幅広い許容力を兼ね備えるのではないかと考えるからである。(若杉)

別表1の保育士がよく使う絵本・紙芝居・ビデオの作品名についての回答の概要は、回答総数988、作品数203であった。その中で、テレビの人気アニメ、アンパンマンが82と1位の回答数を得た。その他、二桁台の回答を得た作品名(名作・昔話等の総称含む)数は20作挙がり、総回答数は610であった。その作品名の内訳としては、前述したテレビアニメや漫画、現代の絵本作家、日本及び世界の名作童話(昔話や民話を含む)、季節・行事・戯・病気の絵本・紙芝居などが挙げられ、バリエーションに富んだ内容となっていた。一桁台の作品の回答総数は378、作品数は183作品であった。この中で1~2人しか挙げなかった作品名は、140作品に及んだ。この結果から受け取った第一印象は、テレビの影響が意外と少なかったという点である。最も多く挙げられたアンパンマンにしる総回答の9%を割り、その他の作品を考へても、現代の社会現象の一面でもあるテレビの影響は、それほど強く反映されていなかった。全体の傾向としては、前述したように名作・昔話・民話などの代表的作品、現代の絵本作家・人気漫画の他に、少数意見ではあるが現代美術の画家が制作した絵本なども顔を出し、実に多種多彩であり、又個性的な作品も選ばれていたということである。このことは、現代の豊富なマスメディアの存在と、保育士自身が既存の価値判断に縛られることなく、日常の保育に生かすことが出来る作品を、個々の感性や価値感で選ぶ傾向が強く浮き出た結果と言えるのではないかと考える。(若杉)

別表2「童謡」(クラスでよく歌われる曲)



については、回答数375件、回答曲目総数682曲、作品数172曲であった。「季節の歌」という回答が多くあったため、「チューリップ」「このぼり」「たなばた」「みずあそび」「どんぐりころころ」「たきび」「ひなまつり」に関しては「季節の歌」の中に入れた。その結果1位「季節の歌」30.3%となった。ついで、トトロより「さんぽ」「わらべ歌」「おもちゃのチャチャチャ」「犬のおまわりさん」と続く。そして希望と友情に関する歌が続いている（詳しくは別表2参照）。

別表2から見る結果においても日常の保育に沿った歌が好まれ、生活と密着した豊かな感性が育まれていることを示している。

次に「遊び」（クラスで好まれている遊び）に関して、回答者399件、回答総数840、であった。1位「伝承遊び」（33.0%）次いで「ごっこ遊び」（35.0%）「おにごっこ」（27.0%）「運動遊び」（26.5%）「製作遊び」（25.5%）

であった（詳しくは別表3参照）。

別表3の結果より「伝承遊び」「ごっこ遊び」「製作遊び」「運動遊び」がどれもまんべんなく子どもに好まれ、子どもがやりたいことをのびのびできる環境が整えられていることがうかがえた。

これらの結果を通して、日本の童謡や遊びの文化伝承は保育の場において守られており、保育者は文化伝承の役目を担っているということを再確認した。

さらに、保育の場においては、保育者の方々が、現代のマスメディアの洪水の中にもありながらも、恵まれた自然環境を生かし、そして個々の子どもの発達をしっかりと捉え、子どもの心を受け止め、共感し、創造性豊かな表現活動がなされていることを示している。

学生（実習生）においては自己の表現力を高めると共に、表現することの楽しさを感じ取る体験指導が重要といえる。（篠田）

別表1 子どもによく読まれる絵本

アンパンマン	82	赤たろうシリーズ	8	すてきな3人組	4
日本の昔話	69	エルマーシリーズ	8	ぐるんばのようちえん	4
3びきやぎのガラガラドン	60	ももたろう	8	おおきなおおきなおもい	4
おおきなかぶ	51	11びきのねこシリーズ	7	3まいのおふだ	3
ノンタンシリーズ	50	はじめてのおつかい	6	モチモチの木	3
ぐりとぐら	40	バーバ・パパ	5	スーホのしろいうま	3
季節・行事・しつけ・病気等	39	どろぼうがっこう	5	ひとまねこざるシリーズ	3
はらぺこあおむし	32	からすのパンやさん	5	めっきらもっきらどおんどん	3
3匹のこぶた	28	ひかりのくに	5	エリック・カールのしかけ絵本	3
おおかみと7匹の子やぎ	26	ごきげんのわるいコックさん	5	はじめてのおるすばん	3
ばばあちゃんシリーズ	22	ねない子だれだ	5	3匹のこぐま	3
てぶくろ	20	ぼちぼちいこか	5	かいじゅうたちのいるところ	3
じごくのそうべえ	15	いやいやえん	5	おつきさまこんばんは	3
14ひきのねずみシリーズ	15	ねずみくんのチョコッキシリーズ	5	とべ、バッタ	3
グリーンマントのピーマンマン	13	たまごのあかちゃん	5	カラスのパンやさん	3
あかずきんちゃん	13	お風呂大好き	4	いやだいやだ	3
おいしいのぼうけん	12	きよだいな、きよだいな	4	たろうのおでかけ	3
いないいないばあ	11	キャベツくん	4	たべられたやまんば	2
グリム・アンデルセン童話	11	おしやべりなたまごやき	4	松谷みよこシリーズ	2
ぞうくんのさんぽ	10	そらいろのたね	4		
世界の昔話・民話	9	みみちゃんえほん	4	他1回答および2回答378	
もこもこもこ	9	10びきのかえるシリーズ	4		
かこさとしシリーズ	8	くうちやん絵本	4		

集計 長谷部

別表2 子どもによく歌われる童謡

季節の歌	126	いぬのおまわりさん	14	となりのトトロ	5
以下も含む		ぞうさん	13	こどものせかい	5
ちゅうりっぷ	14	かえるのうた	12	かくれんぼ	4
こいのぼり	7	カレンダーマーチ	10	おもいでアルバム	4
たなばた	4	はじめのいっぽ	9	ダンゴ三兄弟	4
みずあそび	4	アンパンマンマーチ	7	ドラえもん	4
どんぐりころころ	14	うちゅうせんのうた	7	おかあさんといっしょ	3
たきび	4	せんせいとおともだち	7	あわてんぼうのサンタクロース	3
ゆき	7	ヤンチャリカ	6	ハッピーチルドレン	3
ひなまつり	14	ガンバリマン	6	ミックスジュース	3
		ぎょうじのうた	6	にんげんっていいな	2
トトロより「さんぽ」	66	そうだったらいいのにな	6	おつかいありさん	2
わらべうた	25	ドレミのうた	6	あおいそらにえをかこう	2
おもちゃのチャチャチャ	18	みんなともだち	6		
世界中の子供たちが	18	ほっほっほっ	5	他1回答および2回答116曲	
てをたたきましよう	15	こんこんくしゃん	5		

集計 篠田

別表3 子どもの好きな遊び

伝承遊び	146	製作	112	運動遊び	106
あわぶくたった	28	ブロック	46	ボールを使って	65
かくれんぼ	27	おえかき	19	なわとび	20
あやとり	14	ねんど	13	さんりんしゃ	5
コマ回し	11	新聞広告を使って	12	その他	16
はないちもんめ	10	廃材を使って	12	ゲーム	62
かごめかごめ	7	その他	10	いす取りゲーム	17
なべなべそこぬけ	7	おにごっこ	109	フルーツバスケット	16
その他	42	おにごっこ	60	ハンカチおとし	13
ごっこ(ままごと系)	139	むっくりくまさん	11	その他	16
ままごと	65	こおりおに	10	室内	62
ごっこ遊び	45	どろけい	8	じゃんけん	31
ヒーローごっこ	13	おおかみさんいまなんじ	8	砂場	29
その他	16	その他		その他	41

集計 篠田

(4) 実習までに優先させるべき保育士養成科目について

実習を受け入れている保育士は、実習生にどの程度の専門的知識・教養(保育に関する)や保育技能を求めているのだろうか。また、実習を行うのに必要と感じているのだろうか。「専門性」に関する質問に対し、次のような結果が得られた(図5)。なお、12項目のうち3項目を選択する回答形式にしたが、回答者に意図が的確に伝わらずに、4項目以上を選択している回答が35件あった。調査結果の

正確さを重んじ、これらは無効とした。

ここでは、保育士の考えを参考にして、実習までに保育士養成校の学生が身につけなければならない知識・技能を現行の保育士養成カリキュラムの中から抽出することが目的である。我々養成校の教員は、基礎から応用へ、一般から専門へと、授業科目を配列したい。また、そうすることが理想的でもある。しかし、短期大学在籍期間の半ばから保育所等での実習を行わせねばならない保育士養成校においては、大学教育における一般的なカリキ

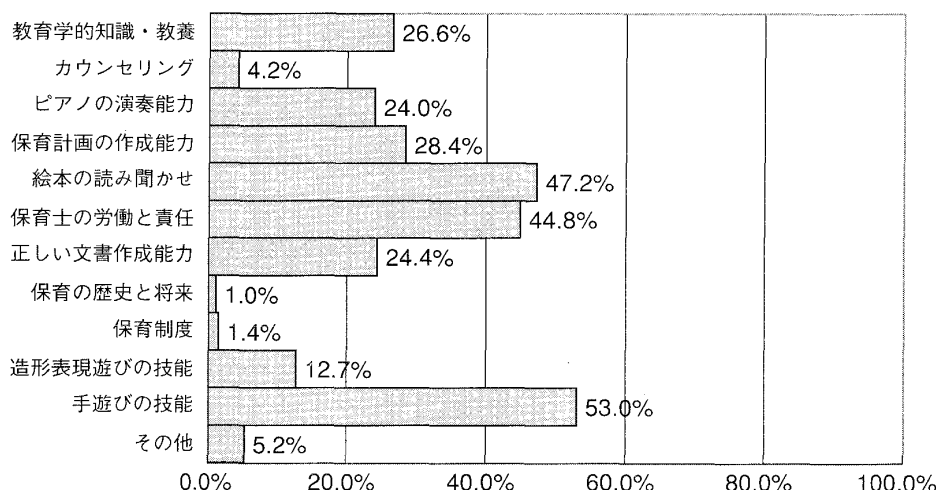


図5 望まれる専門性（複数回答）

ュラムを適用することはできない。なぜならば、保育実習を行う時期は保育士として必要な能力を身につける途上であるために、実習生が自己の能力を十分発揮できないことになる場合が多いからである。

図5からわかるように、「手遊びの技能」と「絵本の読み聞かせ」が必要という回答が非常に多い。手遊びについては、53.0%の保育士が必要と答えている。手遊び・絵本読みは、いずれも毎日の保育活動において必ずといっていいほど実践される内容である。このように、日常必要とする保育技能の修得を最優先としていることがよくわかる。ただし、保育技能であるにもかかわらず「造形表現遊び」については、必要とする回答者が少ない。全回答者の12.7%にとどまっている。

「保育士の労働と責任」については全体の44.8%が必要と答えている。この項目は、具体的には、厚生省告示科目「保育の目的と本質の理解に属する科目」である「保育原理」の内容に含むものとしてあげたのである。回答から、保育士自身の職責について十分な理解をした上で実習に出向かせてほしいという意向が同える。一方で、保育士養成校の考え方はどうであろうか。養成校では、学生たちが実習を経て、保育士という職業に対する責任を実感してほしいという期待を少なからず持っている。保育士の法的位置づけ、労働条

件、職責などを知識として獲得してから実習を行うことが責任ある行動に結びつくと考えたい。

「保育の歴史と将来」「保育制度」については、厚生省告示科目「保育原理」に含まれる内容であるにも関わらず1.0%、1.4%という、きわめて低い割合になっている。同じく厚生省告示科目である「教育原理」の内容に含まれる「教育的知識・教養」についても26.6%が必要と答えているにすぎない。保育士養成校は、「教育原理」を保育について学ぶための基礎としてとらえている。したがって、保育実習前に開講する養成校が多いと思われる。

これらのことから、実際に保育の場に貢献している保育士の考え方と、養成カリキュラムの配列を効率よく行おうとする養成校の考え方に差異があることがわかる。

保育士養成の基礎技能・基礎科目である「ピアノの演奏能力」「正しい文章作成能力」についても、ともに24%程度の割合に留まっている。

「その他」の回答で自由記述が、26件あった。おおよそ内容は「一般常識・知識が必要」「保育に対する意欲」「実習の目的意識」等が複数回答あった。特に「勉強より、挨拶や時間を守ることなど、基本的なことをこなせるようにしてほしい」という基本的な人間形成に関わる指摘も1件ある。また、「子ども達の

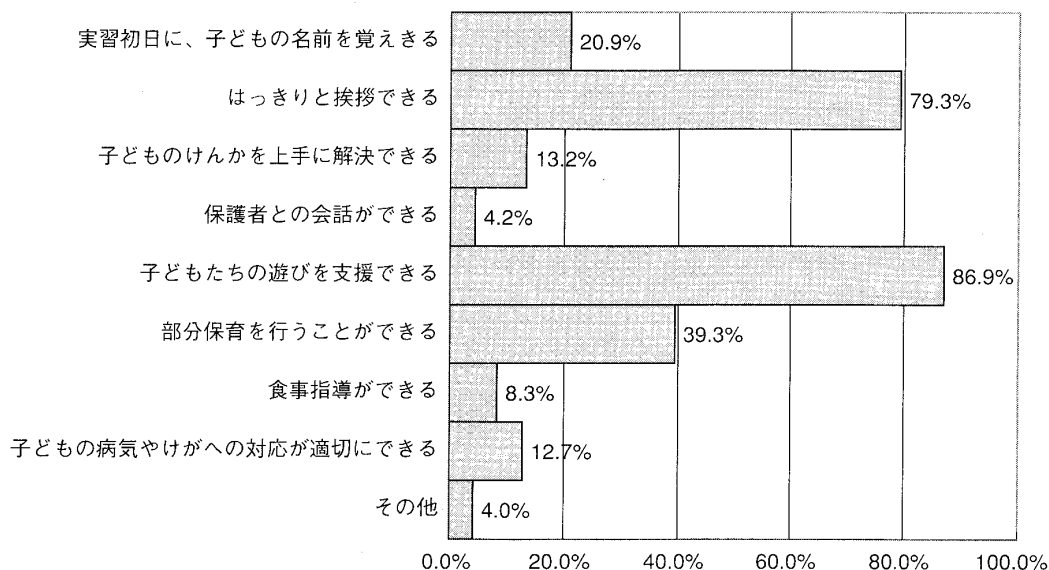


図6 望まれる幼児理解能力 (複数回答)

前で、自信を持って披露できるものをひとつもってくる」という、具体的で実習生にとっても自信に結びつくと思われる記述もあった。

まとめると、本来家庭教育で培われるべき人間形成を基礎とした上で、専門的技能を保育実習までに身につけておくことを、保育士は願っているといえよう。

#### (5) 幼児理解能力の育成について

保育を行う場合、個々の子どもの性格や発達段階を理解した上で、適切なコミュニケーションをとることが要求される。保育士たちは、実習生にはどの程度の幼児理解を望んでいるのであろうか。図6でも上位3項目を選択する形式で回答を得た。

概観すると、この質問についても保育実習生に保育者としての専門性ではなく、通常の人間関係でも必要とされる日常生活のマナーを要求していることがわかる。つまり「挨拶」(79.3%)や「子どもの遊びを支援すること」(86.9%)が高い割合を示している。それに対し、「保育の内容・方法」の修得を基礎とした「部分保育を行う」ことについては、39.3%とあまり高い割合になっていないのである。

また、現代の保育士に強く望まれている、親支援の役割の一端になると思われる「保護者と会話ができる」では4.2%と、もっとも低い割合になっている。しかし保育士の職務の中で親とのコミュニケーションは、連絡ノートを通じてでも必要となる場合が多くある。さらに子どもの成長発達を保障するには、家庭生活と保育所での生活を一致させていかねばなるまい。そのためにも親と保育士とのコミュニケーションは重要な役割を果たすのである。加えて、「緊急保育対策等5カ年事業」のひとつであった保育所の「地域子育て支援センター」開設も広げられるので、保育士の役割として親支援はますます重要となる。だから保護者との会話は、保育士にとって必要かつ重要な職務である。にもかかわらず、実習生への期待が低いのは、実習と職務のギャップととらえたい。

食事指導や、病気やけがの援助も実習生に対する要求としては低い割合になっている。これらに関する授業科目は、保育士養成校では、「小児保健講義・実習」を5単位、「小児栄養講義・実習」を3単位で「告示科目」として規定されており、両教科目とも単位数としては多い。これらの授業科目はたしかに実際に保育士として職場に入ったおりに重

要である。しかし、実習期間中に実習生が主体となって食事指導を行うことや、病気やけがの対応をすることは、非常に少ないとおもわれる。したがって、これらにかかわる授業科目については、保育士資格を取得するまでに履修すべき科目と判断してよい。同様に「子ども同士のけんかを上手に解決できる」という幼児理解のために重要な項目といえる事柄にも13.2%と、低い割合にとどまっている。

これらの回答から、保育士は実習生に対して幼児理解能力や保育技能より、人間関係を円滑にできることを優先していることがわかる。子どもの遊びに加わるためには、子どもの発達理解や教育学的知識が基礎となっている。だが話しかけの技法や子どもの遊びについての知識、遊びに参加できるなど、保育士の実習生に対する要求はどうしても具体的活動に限定されがちである。

「その他」の欄には21件の回答があった。「幼児の内面を理解しようと心がけること」「子どもを見守ること」「積極的に子どもや保育士と関わりを持つこと」など幅広く、高い能力を要求する記述が多かった。実際に保育に携わる際には、幼児理解能力が保育の質を問う鍵となるはずである。各記述に、保育士の真剣な眼差しが感じられた。

#### (6) 実習担当保育士が望む実習生像について —自由記述より—

自由記述の欄に162件の解答があった。

これを大きく分類してみると、実習生への意欲、知識、人間性の面での像が浮かび上がってきた。

まず実習生として、実習期間中の姿としては、「積極的に意欲を持って取り組む」(37件)、次いで「子どもと楽しく遊び・子どもにかかわる」(32件)、「明るく元気に」(29件)、「子どもに言葉がけをする」(12件)、「子どもの目線で」(5件)、「子どもの気持ちを受けとめる・理解する」(5件)のような記述より、子どもの姿を知ることがポイントに実習に取

り組んでほしいという結果がうかがえる。

さらに、学生として漢字能力などの一般常識はもちろんのこと、「子どもの発達に関して」(3件)、「子どもの動きに、臨機応変に対処」(3件)、「保育に生かせる自分のできるレパートリーを身につける」(6件)、「言葉使いを正しく」(2件)、「小動物・植物の知識」(1件)など、知識を養う必要があることがうかがえる。

また、「わからないこと・疑問点を質問する」(28件)、「人としての常識を身につける」(7件)、「日常生活がきちんとでき・人間的モラルを身につける」(8件)、「第一印象を良くする」(3件)など、基本的な生活マナーが必要であることが読み取れる。

その他、「実習ノートの形式・書き方」(6件)、「実習の時期・期間」(10件)について、さらに「アンケートについて」(4件)の意見もあった。

これらの事より、実習生としての実習中の姿や、それまでに成すべき事柄が、明示された。

#### 自由記述より(原文)

- ◎若い子特有の話し方がそのまま実習日誌に表現されますので、指導を願います。
- ◎ここ最近、保育士にならないが、単位をとるために実習にこられる方が増えてきました。それが、実習態度、意欲、子どもたちへのかかわり方に影響しています。
- ◎短大2年では不足。実習だけでも半年～1年必要。  
例：1カ月実習→1カ月大学→1カ月実習→1カ月大学 のくり返しが必要
- ◎子どもたちに、こんなこと(あそび)を提供してみたいと思う事を考えてきて、やってみてほしい。
- ◎自分自身、身につけていない事が多く、実習生だけにいろいろと望むことはできないと反省しました。
- ◎この時期に年長の実習を希望されましたが、保育日数が実質25日無いところでの実習は

担任として大変つらいものがあります。1年の最後は担任と子どもとでゆったりすごしたいです。1年間深めてきた信頼関係の中へ最後に入られるのはちょっと困ります。

## 6. おわりに

「保育実習に必要な養成カリキュラムの検討」をテーマとし、アンケート作成・分析また各自の分担部分の執筆に携わってきた。全体の分析結果を元にした論考を通読して感じ取ったことは、養成校の教員として現在の学生全般に欠けていると思われる点が、実習生を受け入れる保育士の方々とほぼ一致していたことである。そのことは、今回のアンケートで見受けられた実習生に欠けている点、望まれる姿勢などの要望・指摘が非常に多かったということに顕著に表されている。そこには、実習生個々の実習姿勢に対する受け入れ側の困惑と戸惑いが、切実な問題点として浮かび上がっていた。

アンケートの回答中に問題点として頻繁に表れていた事項は、「挨拶ができない」「幼児との対話・言葉がけができない」「保育士に質問しない」「敬語が使えない」「臨機応変に物

事に対応できない」など人間関係・生活を円滑に進めるための知恵や知識・基本的な生活マナー・実践力・自己表現能力が著しく欠けているという指摘であった。このことは、本来保育士になるための実践的学習の場であるはずの実習においてさえ、専門的な知識の必要性以上に、基本的な人間形成を問われているといえよう。また、保育技能の事項においても実習生の段階では知識や技能的能力より、人間としての豊かな表現能力を重要視する結果となっていた。前述したように、養成校の教員としても近年の学生の資質や気質には危惧を感じ得なかったが、実際、アンケート回答として受け取ったとき、その思いはあっそう現実感を増した。

最後に、このアンケートにご協力いただいた岐阜県ならびに愛知県内78ヶ所の保育所の保育士の方々に心から感謝の意を表します。

## 参 考 文 献

保育福祉小六法編集委員会編「保育福祉小六法 2000年版」(株)未来, 2000年4月

全国保育団体連絡会編「保育白書 2000年版」草土文化, 2000年8月